

## 第11回青少年問題協議会及び犬山市青少年センター運営協議会会議録

1 附属機関の名称 犬山市青少年問題協議会

2 開催日時 令和元年2月19日(水)午前10時00分～11時55分

3 開催場所 犬山市役所 202会議室

4 出席者した者の氏名

(1) 委員：佐々由高、板津克哉、倉地直文、松本里美、元安明、小川雅章、田島奈生美、深見公子、沖藤妙子（9名／11名）

(2) 執行機関：文化スポーツ課梅田貴大主査補、青少年センター井戸則夫所長、同所角村利恵相談員

5 議題

(1) 海外における青少年のインターネット事情について

(2) 平成30年度～令和元年度期協議の報告書について

(3) 青少年センター相談事例について

6 傍聴人の数 0人

7 内容

(1) 会長あいさつ

佐々会長より時候の挨拶があった。

(2) 報告事項

①第5回犬山市青少年健全育成市民会議の報告

会議録に基づき小川委員より、報告があった。主な内容は、青少年健全育成講演会、困難を抱えた子ども若者支援のための研修会の実施内容、令和2年度の活動予定等についてであった。

(2) 協議

①海外における青少年のインターネット事情について

前回の協議会において、海外のスマホ事情が知りたいとの要望があり、事務局より資料提供をした。国によって違いがあるが、日本よりインターネットを積極的に利用する国も多い。ネット依存、ゲーム依存、ネットいじめ等はどの国でも共通の問題となっている。世界的に見て日本のフィルタリングシステムは評価が高い。しかし、その日本ではLINEを利用するために子どもたちがフィルタリングを外して使用することが多い。

②平成30～令和元年度の協議のまとめ報告会について

- ・日時：令和2年4月23日(木)午後1時30分～3時00分
- ・会場：犬山市民交流センター(旧称犬山国際観光センター)2階会議室
- ・役割分担：今期の委員により報告する。役割分担は次回の協議会で行う。

③平成30～令和元年度期協議の報告書について

ア 報告書依頼原稿への補足・修正について

報告書2月19日案に基づき、内容の確認をした。字句の修正が複数出された。

イ 提言内容について

- ・各々の家庭なりのルールとは具体的に何か。
- ・グレゴリーへの「スマホ18の約束」は参考になる。
- ・デジタル時代だからこそ、顔を合わせる人間関係と、家庭の在り方が、親子関係の在り方が重要になってくる。
- ・あいさつ運動とともに、スマホの利用についても啓発運動を展開したい。
- ・国(文部科学省)も全国の児童生徒にスマホ利用に関するリーフレットを配付予定である。
- ・PTAや学校の行事の中で、保護者にスマホの与え方やフィルタリング、子どもへの指導に関する研修を行いたい。

- ・表面のツールは違えども、青少年問題協議会の協議の行き着く先は「家庭及び親子関係の在り方」である。

④青少年センターの運営について

ア 冬休み合同街頭指導（冬期県民運動）の反省・感想について

- ・見回っていても子どもを見かけることが少ない。
- ・小牧のラウンドワン、扶桑のイオンのゲームセンターあたりには、結構子どもたちが来ている。しかし防犯カメラの普及に伴いたかり等の犯罪は少なくなった。
- ・児童センターを回っているとき、運動場の使い方のルールを子どもたちに唱和させていたのに驚いた。

イ 青少年センターへの相談（事例26）から ～ニート（外国籍少年）～

- ・Wリミテッド(母国語にも日本語にも壁がある)の典型的な事例である。
- ・こうした子どもたちへの支援体制がまだ十分整っていない市町がある。
- ・引きこもり、ニートになっている同様の青少年は他にもいると思う。
- ・日本語は十分できなくても、体力に自信のある若者を求めている職場もある。

⑤次年度の協議会の委員について

- ・今年度末で退任あるいは交代する役職者については、所属する組織・機関の長に、後任者の推薦依頼を今後行っていく。

8 3分間スピーチ（佐々由高会長）

昔は、視力が1.5以上の子どもがたくさんいた。しかし、最近の小学生を見ると眼鏡をかけているものが多い。調査によれば、小学生～高校生全体で視力1.0以下は68%にもなる。これはTVやスマホの影響にされがちであるが、バイオレットライト(紫外線)の不足が原因になっていると言われている。屋外で太陽光を浴びることで紫外線も浴びる。やはり子どもは外で元気に飛び回ることが大切である。

9 その他

(1) こども・若者育成支援のための地域連携推進事業中央研修大会参加報告

11月25・26日に東京で開催された研修会のほうこくが松本委員からあった。

- ・15～39歳の引きこもりは54万人、40～64歳は61万人いる。特に40～44歳は就職氷河期で就職できなかった者で支援が必要である。
- ・若者に対する相談支援には、LINE相談のニーズが高い。具体的な相談事例の紹介があった。

(2) 次回の3分間スピーチ（板津副会長）

(3) 本会議の青少年健全育成市民会議での報告者（小川委員）

(4) 次回開催予定3月27日(金)午後2時から（会場 市役所401会議室）

令和2年 月 日

上記に相違ないことを確認する。 \_\_\_\_\_ 印

\_\_\_\_\_ 印